

## 春植えタマネギは端境期出荷が可能である

### [要約]

茨城県におけるタマネギ栽培では、適品種を12月下旬～2月上旬までに播種し、2月下旬～4月中旬に移植する春植え作型(露地栽培)により、平均球径7cm以上及び可販収量5t/10a以上で6月下旬から7月に収穫でき、8月まで出荷できる。

茨城県農業総合センター園芸研究所	令和元年度	成果区分	普及
------------------	-------	------	----

### 1. 背景・ねらい

タマネギは加工・業務需要が国内消費量の約60%と高いが、7～8月が加工・業務需要の出荷量が少なく、実需者からはL品(球径:7～9cm)以上で、周年的安定出荷が求められている。一方、本県においては、秋植え・5～6月収穫が慣行栽培で、5t/10a以上の収量を得ながら端境期に生産する技術を確認する必要がある。

### 2. 成果の内容・特徴

- 1) 春植えタマネギ(露地栽培)は、中生種の「七宝甘70」「オーロラ」、中晩生種の「ネオアース」、晩生種の「もみじ3号」「マルソー」及び「TTN(トタナ)」が適し、12月下旬～2月上旬に播種、2月下旬～4月中旬に移植すると、6月下旬～7月に収穫でき、可販収量は概ね5t/10a以上、2L・L品率は90%以上となる(図1及び表1)。
- 2) 春植えタマネギの作型は、タマネギ慣行作型(秋植え)及び水稲との作業競合が避けられるため、既存のタマネギ栽培農家や水田作を主とした経営体への導入が期待できる(図2)。
- 3) 本作型のタマネギは1か月程度の貯蔵が可能で(図3)、7～8月の端境期に出荷が可能である。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 慣行作型に比べて、育苗管理、除草及び病虫害防除の徹底が不可欠である。
- 2) 本作型のタマネギは、過剰施肥による腐敗球の発生等を防ぐため、施肥量「N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=15-15-15(kg/10a)」とし、肥効期間の短い窒素肥料を全量基肥施用する(データ省略)。
- 3) 本成果は、栽培マニュアルとして「機械化一貫体系によるタマネギ栽培(茨城県版)」に掲載し、配布する予定である。

#### 4. 具体的データ

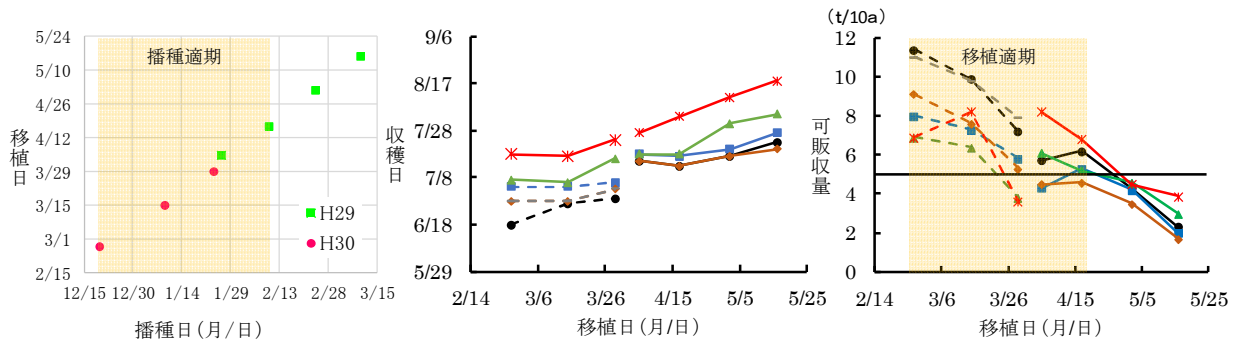


図1. 播種及び移植日が収穫日及び可販収量に及ぼす影響(実線はH29年収穫、点線はH30年収穫)

●:七宝甘70、○:オーロラ、◆:ネオアース、■:もみじ3号、▲:マルソー、\*:TTN(トタナ)

表1. 春移植栽培における収量及び品質(抜粋)

収穫年度	播種日 定植日	品種	収穫日	球径 <sup>1)</sup> (cm)	2L・L品率 <sup>2)</sup> (%)	可販収量 <sup>3)</sup> (t/10a)
H29	1/26	七宝甘70	7/15	8.1	100	5.7
	4/5	マルソー	7/18	8.2	100	6.1
		TTN	7/27	9.0	98	8.2
H30		七宝甘70	6/29	9.5	100	7.2
	1/24	オーロラ	7/3	9.6	100	7.9
	3/29	ネオアース	7/3	8.2	92	5.3
		もみじ3号	7/6	8.3	98	5.8
H30慣行 (参考)	H29 9/20 H29 11/27	七宝甘70	6/15	9.1	95	6.7

注1)球の長径  
注2)収穫球のうち腐敗球および分球を除いた正常球のうち2LおよびL品の占める割合、茨城県青果物標準出荷規格により「甲高種 2L:9cm以上、L:7cm以上」を参考  
注3)総収量(t/10a)×正常球率/100  
【耕種概要】288穴セルトレイ育苗、[H29]条間15cm、株間15cm、6条、栽植密度24,996本/10a、[H30]条間24cm、株間15cm、4条、栽植密度22,220本/10a、全量基肥[H29]N-P-K=20-20-20(kg/10a)、[H30]N-P-K=15-15-15(kg/10a)、[H30慣行]基肥+追肥N-P-K=25-25-25(kg/10a)

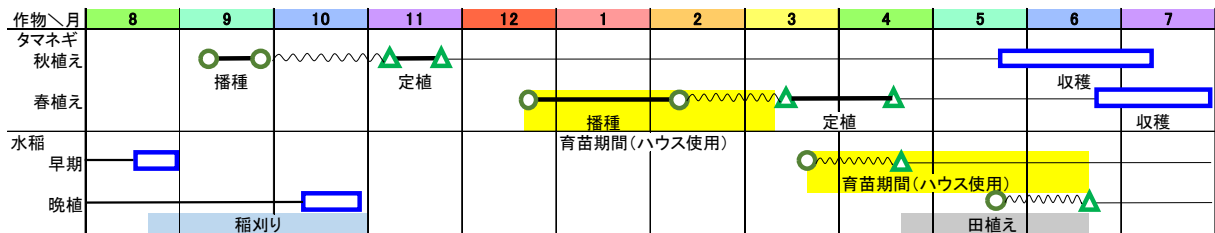
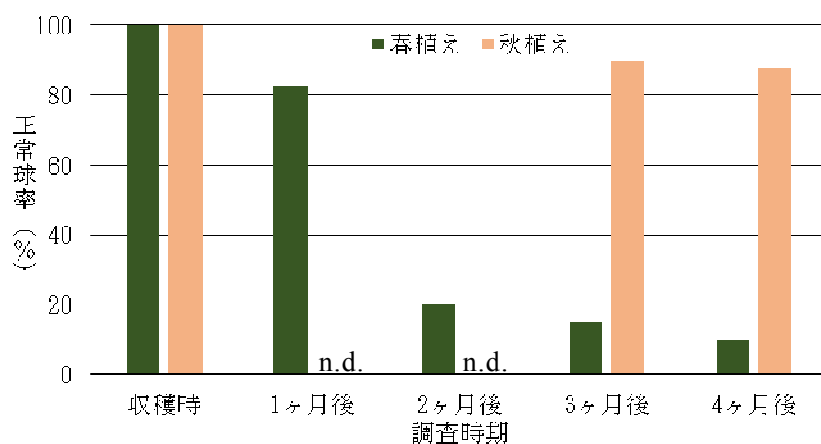


図2. 慣行及び春植えタマネギ、水稲の栽培暦



各区収穫時の正常球20球について遮光率85%被覆ハウス内にコンテナで貯蔵(通風)し調査  
n.d.:データなし  
【耕種概要】春植え:1/9 播種 3/19 定植 全量基肥 15-15-15kg/10a 7/4 収穫、秋植え:9/20 播種 11/20 定植 基肥+追肥 25-25-25kg/10a 6/15 収穫

図3. R1 収穫における「七宝甘70」の貯蔵性

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

タマネギの機械化一貫体系による省力・多収化技術の確立・平成29～令和元年度・野菜研究室